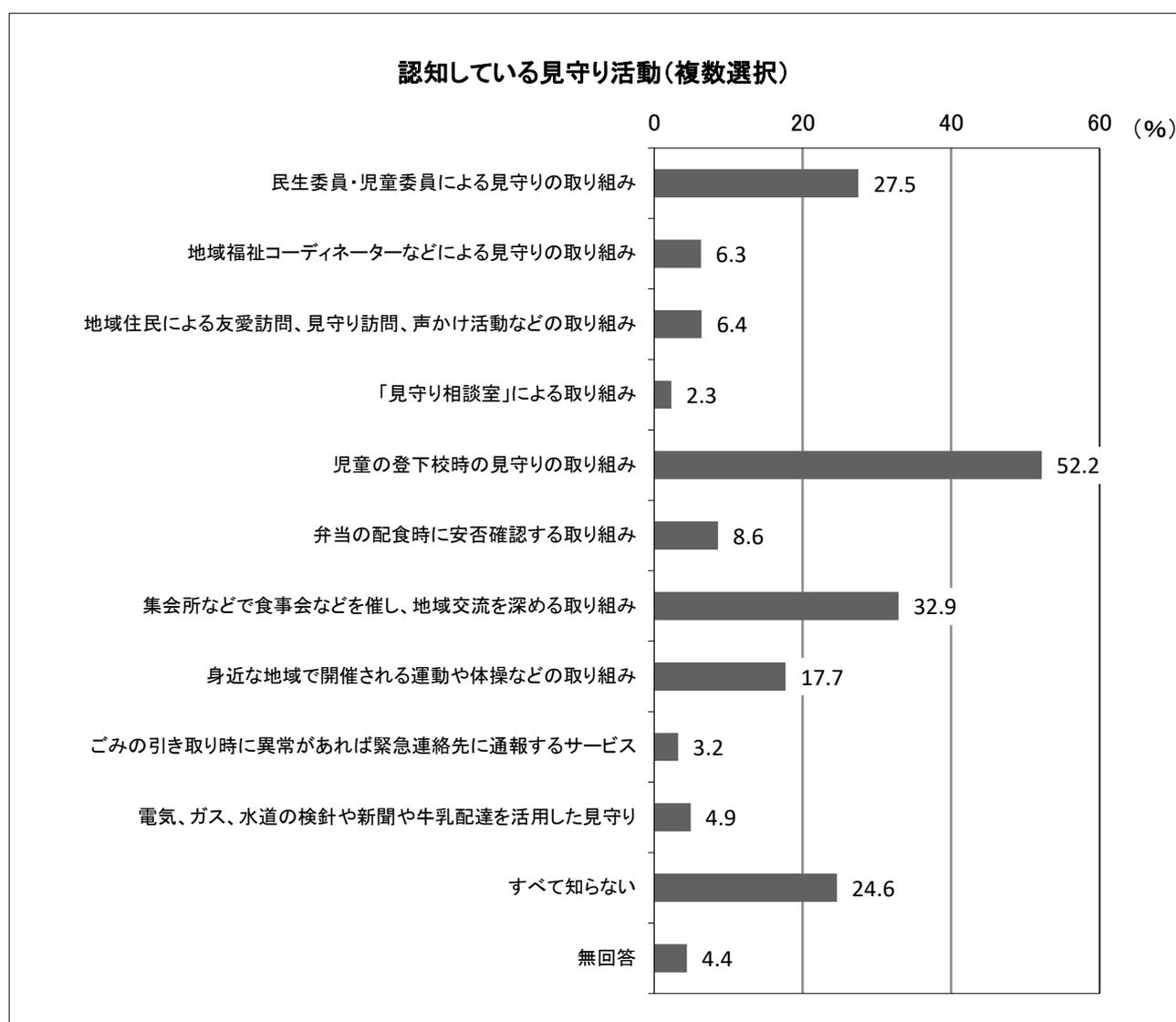


## 2 調査結果

### 地域における見守りの取り組みについて

質問 14 お住まいの地域においては、さまざまな形で高齢者や障がいのある方、子どもなどの手助けが必要な人や気がかりな人を対象とした見守り活動などがおこなわれています。次の見守りの取り組みのうち、あなたが知っている取り組みはどれですか。（回答はいくつでも可）

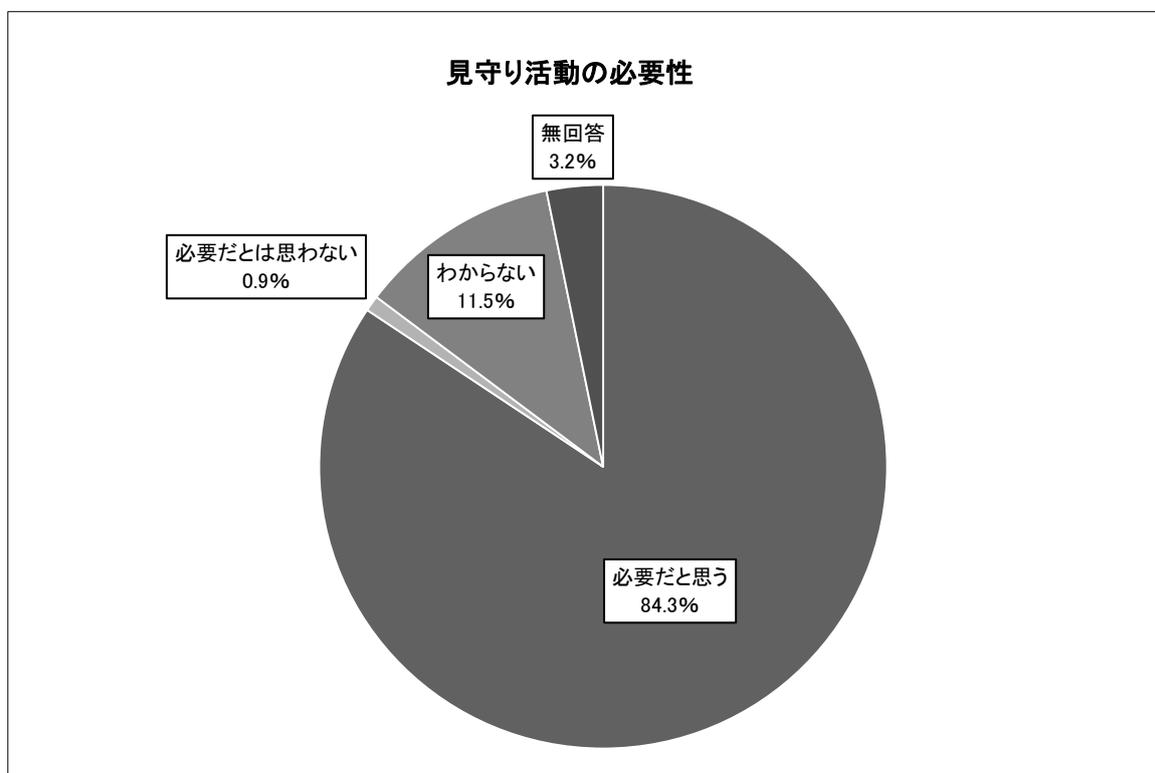


見守り活動の認知度については、「児童の登下校時の見守りの取り組み」52.2%が最も高く、次いで「集会所などで食事会などを催し、地域交流を深める取り組み」32.9%、「民生委員・児童委員による見守りの取り組み」27.5%と続いている。また、「すべて知らない」が24.6%を占めている。



## 2 調査結果

質問 15 大阪市では、ともに支えあって暮らし続けられる地域づくりを進めるために、地域における見守り活動がさまざまな形で実施されていますが、このような活動について、あなたの考えに近い答えを選んでください。(回答は1つ)



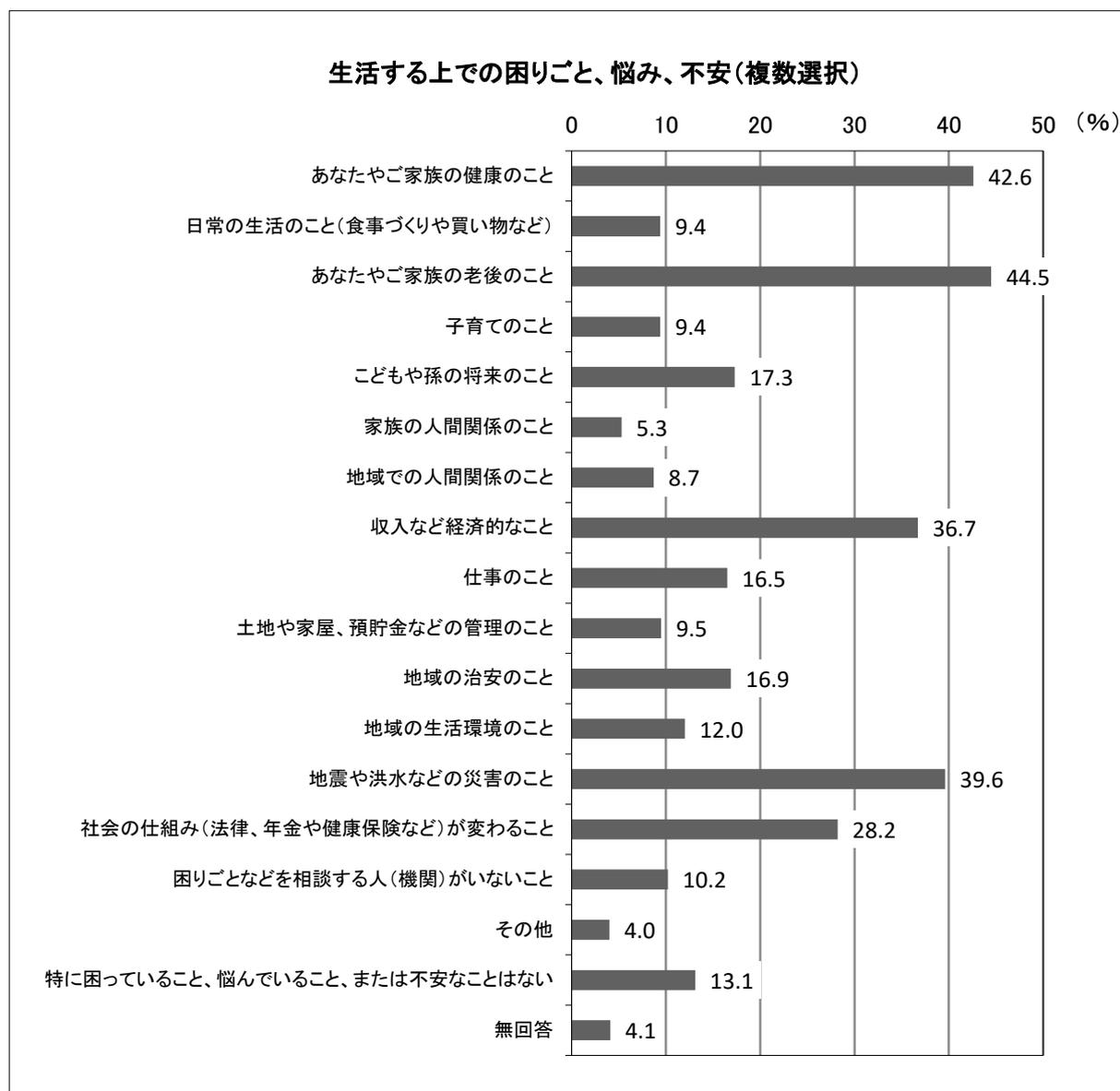
見守り活動の必要性は十分に理解されていることが伺える。



## 2 調査結果

### 相談支援体制の充実に向けて

質問 16 生活する上で困っていること、悩んでいること、または不安なことはどのようなことですか。（回答はいくつでも可）



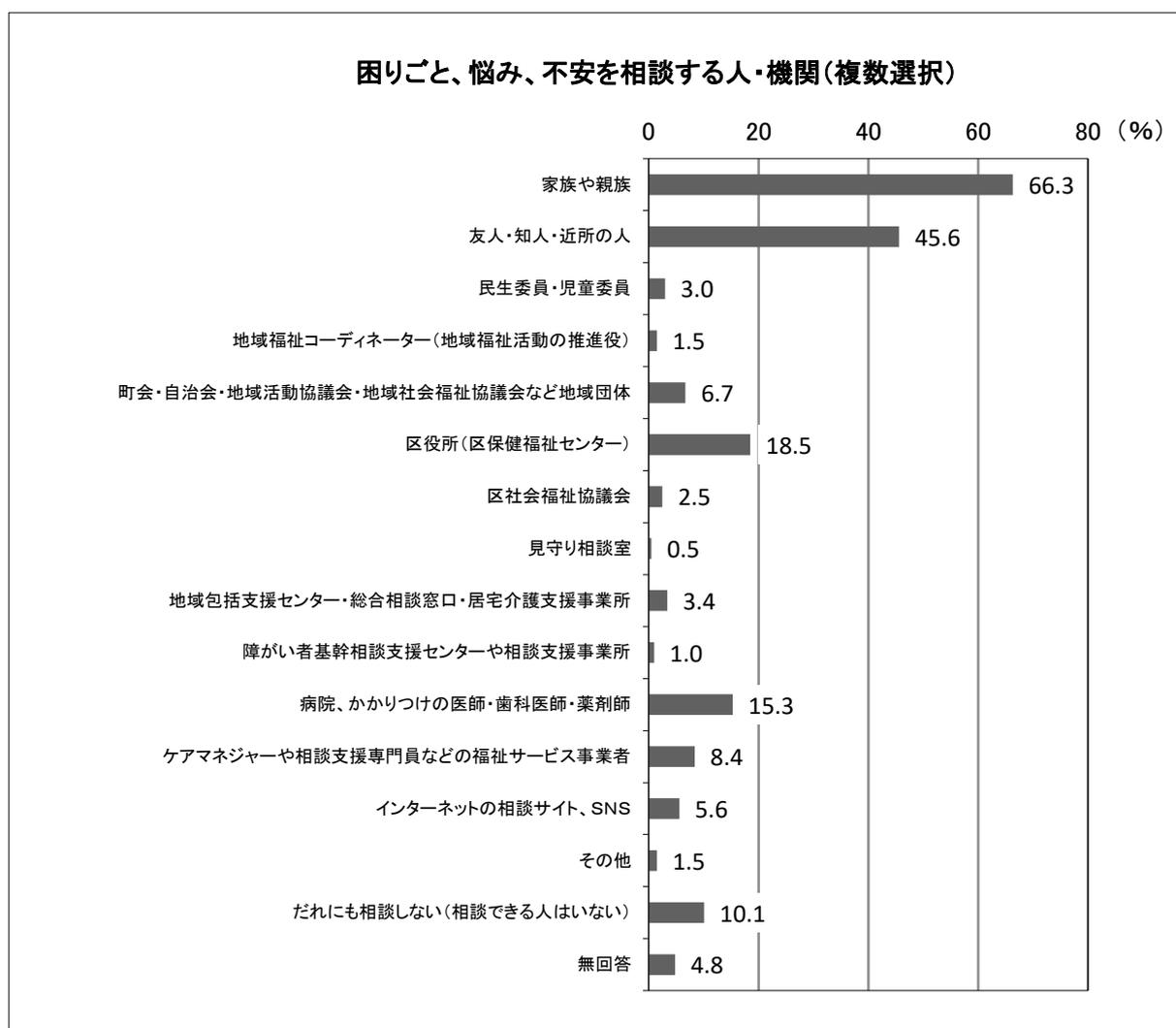
生活する上での困りごと、悩み、不安については、回答者全体では「あなたやご家族の老後のこと」44.5%が最も高く、次いで「あなたやご家族の健康のこと」42.6%、「地震や洪水などの災害のこと」39.6%、「収入など経済的なこと」36.7%と続いている。

「収入など経済的なこと」について回答者の職業別に見ると、「会社員(団体職員)」39.3%、「自営業」39.9%、「公務員」17.2%、「パート・アルバイト」47.1%、「学生」36.1%、「専業主婦・専業主夫」27.7%、「無職」35.0%となっている。



## 2 調査結果

質問 17 お住まいの地域で困っていること、悩んでいること、または不安なことを相談できるのは次の人（機関）のうちどれですか。（回答はいくつでも可）



居住地域で困りごと、悩み、不安を相談する人・機関は、回答者全体では「家族や親族」66.3%、「友人、知人、近所の人」45.6%と比較的高く、「区役所（保健福祉センター）」18.5%、「病院、かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師」15.3%と続いている。「だれにも相談しない（相談できる人はいない）」10.1%となっている。

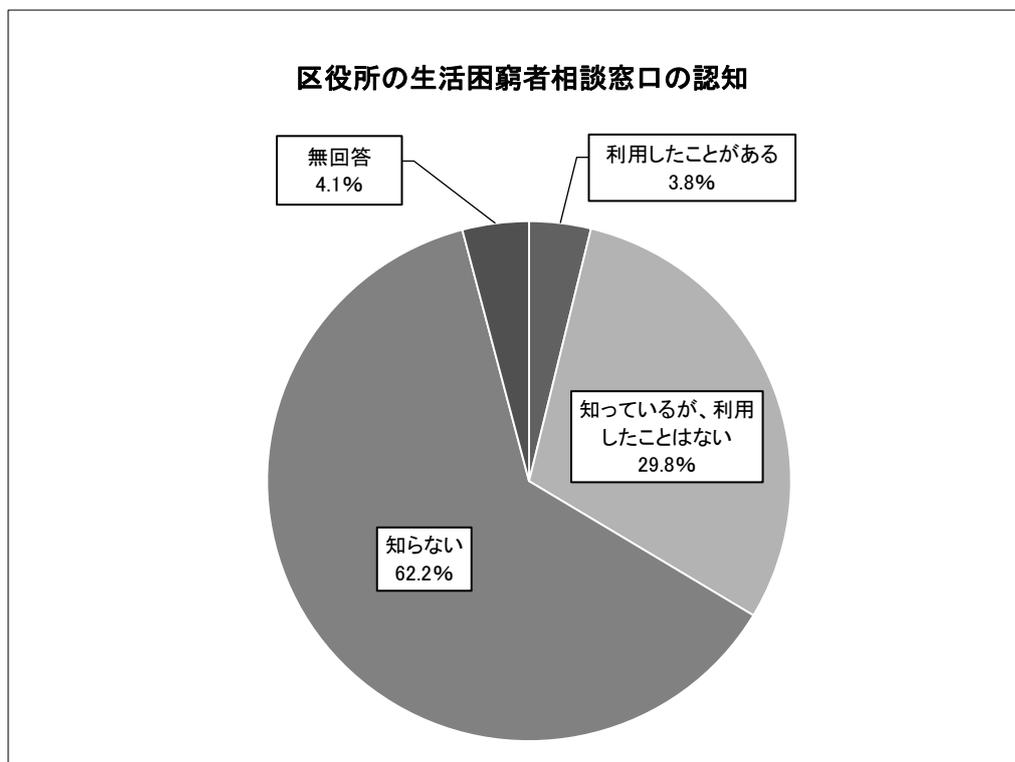
年齢別に見ると、若年層ほど「家族や親族」及び「友人、知人、近所の人」の比率が上がり、高齢層になるとこれらの比率が若干下がり、代わって「病院、かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師」及び「ケアマネジャーや相談支援専門員などの福祉サービス事業者」の比率が高くなっている。

「インターネットの相談サイト、SNS」は若年層ほど比率が上がり、「20歳代」で17.9%となっている。



## 2 調査結果

質問 18 生活に困りごとを抱えた方に向けて、相談支援員と一緒に考え、解決のお手伝いをする窓口が区役所に設置されていることをご存知ですか。(回答は1つ)



区役所の生活困窮者相談窓口の認知度は、回答者全体では「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」が合わせて33.6%となっている。

これを年齢別に見ると、「10歳代(18、19歳)」25.0%、「20歳代」23.8%、「30歳代」29.9%、「40歳代」30.5%、「50歳代」35.8%、「60歳代」31.2%、「70歳代」38.8%、「80歳以上」40.6%となっており、高齢層ほど高くなる傾向がある。

職業別に見ると、「会社員(団体職員)」28.1%、「自営業」35.8%、「公務員」44.8%、「パート・アルバイト」30.7%、「学生」27.8%、「専業主婦・専業主夫」32.8%、「無職」38.9%となっている。

